

砂場遊びにおける環境の応答的分析

○竹内 里絵

中村 尋子

宮原 英種

宮原 和子

(光沢寺中井幼稚園)

(花かご保育園)

(第一経済大学)

(近畿大学九州短期大学)

ハントによれば、認知の発達とは子どもの現在の認知的レベルと環境から与えられる刺激との間の対応(match)によって決定される(J. McV. ハント, 1978)。つまり子どもは、自分が既によく知っているものと適度のズレのある刺激に興味をもつのである。そこで子どもが適度なズレのある環境に働きかけ、その応答的な環境と相互交渉することによって認知技能・運動技能をはじめとする諸能力を発達させることができるのである。さらにこのような物理的環境に加えて、その環境と子どもの能力との間に適切な対応がなされるように、環境を構造化できる応答的な保育者が求められるのである。

本研究においては、このような観点から、砂場遊びにおける子どもの遊びを通して、砂のもつ応答性の解析及び保育者の援助の分析をおこなうことを目的とする。

方法：保育園児10名；1歳児7名、2歳児3名、幼稚園児24名；3歳児7名、4歳児7名、5歳児10名の子どもを対象に、各クラス担任が、子どもが砂場で砂および砂場の道具で遊びはじめてからやめるまでの行動を観察し、筆記記録した。

結果：表1に1歳児、表2に2～4歳児、表3に5歳児の遊びの特徴を技術的に易しいものから難しいものへと分類し、それぞれの遊びのイメージである見立てを記述した。表1の見立ては保育者のものであり、表2、3の見立ては子どものものである。さらに子どもの働きかけに対する環境からの応答性と保育者の援助を示した。

表1に示した1歳児の行動特徴は、自分からイメージをもって遊びを展開するものではなく、保育者が見立てた遊びを楽しむものである。易しい遊びの特徴では、まだ自分自身で砂を使ってものを作ることができず、保育者の作った型抜きをみて喜ぶ段階である。保育者の「ジュース飲みな」[リード]の援助によりスコップで砂をすくいカップに入れる行動が出現している。さらに子どもの発語と行動

に対して[解釈]で対応することで、砂遊びが継続している。難しい遊びでは、保育者の[リード]によって砂のケーキをスコップを使って食べる真似をしたり、石を飾ったりする行動が見られるようになってきている。表2には、生活に則した見立てが多いこと、行動特徴の順序性が重なることなどの共通点がみられることから2～4歳児の行動特徴をひとつにまとめ示した。易しい遊びの特徴では、砂を手で集めたり容器に入れたりして、「山」「ごはん」「ラーメン」「ケーキ」に見立てて遊ぶものである。そこで、保育者が[賞賛][リード][感情移入]で援助し、遊びが継続している。2歳児のみに出現した行動特徴では、保育者の「一緒に食べようね」の[リード]により砂のケーキを崩し食べる真似をするのがある。その他では、保育者が用意した水に砂を入れかき混ぜその感触を味わっていた行為が、徐々に変化していき湿った砂を丸め、「だんご」「おにぎり」に見立て遊びはじめる。また乾いた砂を上から落とし「ふりかけ」に見立て遊んでいる。そこでも保育者が、[感情移入]で援助することで遊びが継続している。難しい遊びでは、容器に砂を入れひっくり返し型抜きしたり、砂のケーキの上に葉を飾ったりすることである。保育者が子どものイメージを読み取り[くり返し][感情移入]や[質問]による援助で対話が発展し、さらに遊びが活発化している。また子どもが失敗をくり返しながらのトンネル作りに、保育者が[解釈]で対応することでさらにトンネル作りに意欲を高めて行く姿がみられる。表3に示した5歳児の行動特徴は、見立てがかなり抽象的になってきていること、遊びに目的がみられることである。易しい遊びでは、砂を手ですくったり、バケツの中ではじかせたり、四つんばいになって足で蹴ったりしながら、そこでの状態に「スコップ」「デザート」「犬かき」と見立てがはっきりしている。保育者は、[賞賛][解釈][くり返し]で受容する援助をおこなっている。水と砂

表1 1歳児の砂場遊びの行動特徴に対する環境からの応答性と保育者の援助

難易度	子どもの行動特徴	環境からの応答性	保育者の援助	
			見立て	言語的応答性
易	・保育者がカップをひっくり返してできた型抜きを見て喜ぶ	型抜きし、形が作られる	ケーキ	「電子レンジに入れてケーキになったかな」[リード]
	・スコップで砂をすくい容器(カップ・バケツ)に入れる	容器(カップ・バケツ)に入る	ジュース	「先生ジュース飲みな」[リード] 「ジュース?オレンジジュースかな」[質問]
	・砂のケーキを食べる真似をし、スコップで形をこわす	形がこわれる	プリン	「大きいプリン作ろうか」[リード]
	・砂のケーキに石を飾る	石を載せることでより	ケーキ	「おいしそうね、皆で食べようか」[感情移入] [リード]
		ケーキに見える		
難				

を混ぜて遊んでいるところに保育者が、【質問】で援助することで「実験」と答え、その遊びが変化しながら継続している。さらに難しい遊びでは、砂を盛り上げたり、スコップで穴を掘ったりしながら見立てて遊んでいる。そこへ保育者が【解釈】や【感情移入】で援助することで子どものイメージがよりはっきりとし、その遊びが発展・継続していく。その遊びを継続していくなかで、砂が落ちていかないようにスコップで叩いたり、手で押し固めたりする技術も獲得する姿がみられる。

考察：それぞれの年齢の砂遊びに技術的な難易性がみられ、

子どもは、自分が獲得したものと適度のズレのある刺激に興味をもちながら遊んでいることが分かった。さらに砂は、子どもの興味に応えるようにいろいろなものに見立てられている。これらのことから砂は、大変応答性の高い環境であり、その応答的な環境と相互交渉することによって、子どもは認知技能・運動技能をより発達させることができるのである。さらに保育者が、その環境と子どもの能力との間に適切な対応がなされるように援助することで子どものイメージが広がり、遊びが発展・継続していくものと考えられる。

表2 2～4歳児の砂場遊びの行動特徴に対する環境からの応答性と保育者の援助

子どもの行動特徴		環境からの応答性	保育者の援助	
難易度	見立て		言語的応答性	
易	・手で砂を集め山を作る	山	小高く盛りられる	Cの発話に対して「あー本当、上手ね」【観察】
	・容器(カゴ・ふし・バケツ・■)に砂を入れる	ごはん ラーメン ケーキ	容器に入れられる	2歳児に対して「先生お腹すいたなー」【リード】 3・4歳児の発話に対して「わーおいしそう」【観察】 「いただきます」「いくらですか?」【観察】【質問】
	・容器に砂を入れたり出したりする	×	入れたり出されたりする	×
	・砂のケーキを食べるまねをする	ケーキ	形を崩される	2歳児に対して「一緒に食べようね」【リード】
	・バケツで水と砂を混ぜる	×	砂と水がかき混ぜられる	×
	・さらさらの砂をかける	ふりかけ	上の方から落とされる	3歳児の行動に対して「ふーん、なるほど」【観察】
	・水を混ぜた砂を手で固める	だんご おにぎり	固く丸められる	3歳児の発話に対して「わーおいしそう」【観察】
	・容器に砂を入れ ひっくり返し、型抜きをする	プリン ケーキ	型に抜かれる	3・4歳児に対して「なになに、何ができた?」【質問】 3・4歳児の発話に対して「プリン」【リード】
	・砂のケーキに葉を飾る	ケーキ	ケーキらしく見える	4歳児に対して「くんくん、いいにおい」【観察】
	・山の下から穴を掘る	ぼうけん	穴が掘られる	4歳児に対して「トンネルができたのね」【観察】

表3 5歳児の砂場遊びの行動特徴に対する環境からの応答性と保育者の援助

子どもの行動特徴		環境からの応答性	保育者の援助	
難易度	見立て		言語的応答性	
易	・手で砂をすくいあげる	スコップ	手で砂が運ばれる	子の発話に対して「おもしろいね、」【観察】
	・バケツを振って中の砂をはじかせる	デザート	バケツの中ではじける	「あらデザートそうやって混ぜるのね」【観察】
	・四つんばいになって足で砂を蹴る	犬かき	足で蹴られた方向に飛ぶ	「犬かき」【リード】
	・バケツの中で水と砂をスコップで混ぜ容器に流し入れる	実験	水と混ぜられ、流される	「何が出来るの?」【質問】
	・タイヤを置いてその中をスコップで掘る	なべ	スコップで掻き出される	「大きなお鍋の中で何が出来るの?」【質問】
	・スコップで砂を盛り山を作る。山を叩く	ありの キャンプ	砂が盛り上げられ、固められ崩れにくくなる	「ありがキャンプするのね」【観察】
	・周囲に道をつくり、山に穴を開けトンネルを作る	トンネル	トンネルが掘られる 道ができる	
	・穴を掘っておとし穴を作る。ふちを手で押して	おとし穴	砂は掘られて穴があく 手で押されて崩れにくくなる	「えっ！おとし穴があるの!」【観察】
	難 固める			